

「ロシア・ゲート」で トランプ政権動揺

拓殖大学海外事情研究所教授

名越 健郎



Kenro Nagoshi

トランプ米大統領の政権運営が、ロシアをめぐる疑惑で混乱や失態が続いている。スキャンダルが次々に報道され、野党・民主党は議会で追及を強化する構えで、致命傷となりかねない。トランプ大統領が公約に掲げる米露関係の改善も、疑惑が足かせとなって後退する見通しだ。外交の混乱で、世界における米国の指導的地位は明らかに低落している。

スキャンダルで補佐官を解任

トランプ政権の「ロシア・コネクション」は、就任式前後から噴出した。

トランプ氏は1980年代から再三ロシアを訪れ、ロシアのビジネスマンらと交流がある。2013年には、ミス・ユニバース世界大会を主催するためモスクワを訪れたが、その際、高級ホテルで乱交パーティーに加わり、その模様をロシア情報機関が映像に収録したとの未確認情報が報じられた。トランプ氏は「フェイク・ニュース(偽情報)だ」と猛反発した。

米主要メディアは、トランプ陣営が選挙戦中にロシアと頻りに連絡を取り、クリントン陣営にサイバー攻撃を仕掛けさせて情報をネット上に拡散させたとの疑惑を報道した。ヒラリー・クリントン民主党候補は大統領選の討論会で、米国の17の情報機関がすべてロシアのハッカー攻撃を主張しているとし、「ロ

シアは私の当選を望んでいない」と述べた。

トランプ氏は新政権の国務長官に、ロシア・ビジネスでブリンチン大統領から「友好勲章」を受けたこともある石油メジャー最有力、エクソンモービル会長のレックス・テイラーソン氏、外交政策の司令塔となる大統領補佐官(国家安全保障担当)に、ロシアで講演やテレビ出演して謝礼を受けていたマイケル・フリ元陸軍中將を起用するなど、「親露外交」を目論んだ。しかし、ブリン氏は就任前、駐米ロシア大使と密約を結んでいたことがメディアで報道され、トランプ大統領もこれを認めて解任した。後任のマクマスター陸軍中將は「ロシアは米国の脅威」と公言しており、外交政策の転換が進みそうだ。

野党・民主党はこれらの疑惑を議会で追及する構えで、ワシントンではニクソン大統領が辞任に追い込まれた「ウォーターゲート事件」になぞらえ、「ロシア・ゲート事件」と呼ばれ始めた。トランプ大統領は米情報機関が意図的に情報をリークしたと非難。ホワイトハウスと情報機関の関係が険悪化している。

ロシアは模様眺め

こうした展開は、ロシアにとっても予想外で、失望しているのは間違いない。ロシア下院では、トランプ氏当選が報告されると、全議員が立ち上がり、「嵐のような拍手」(モスクワ・タ

イズム紙)が起きた。ブリンチン大統領は真つ先に祝電を送り、「米露の共同作業復活」を呼び掛けた。

ロシアでは、クリントン候補が当選すれば、米露関係はオバマ政権以上に悪化し、何らかの武力衝突があり得るとの懸念も出ていた。それだけに、ロシアへの経済制裁解除に言及し、イスラム過激組織「イスラム国」掃討での米露協力を唱えるトランプ氏の当選は「サプライズの贈り物」(米紙ニューヨーク・タイムズ)だった。

政権の影響下にあるロシアのテレビはこの数カ月、ブリンチン大統領よりもトランプ氏を持ち上げる報道に力を注いでいた。ところが、ブリン氏が解任された頃から、トランプ賛美報道が突然消えたという。

英紙「フィナンシャル・タイムズ」(2月21日付)によれば、ロシアのテレビ報道は、欧米の経済制裁や北大西洋条約機構(NATO)の対露圧力を強調する従来の報道に戻ったという。ロシアでは、トランプ政権への期待感が急速に醒め、模様眺めに転換している。

トランプ、ブリンチン両大統領は1月28日、初の電話協議を1時間にわたって行い、米露関係改善や「イスラム国」の掃討協力を話し合った。しかし、公表されている限り、ブリンチン大統領は制裁解除やウクライナ問題にあえて言及しなかった。両国間では、オバマ政権下の過去4年間開かれなかった公式首脳会談の開催計画が根回しされたが、具体化していない。

ロシアが足かせに

ロシア疑惑が深まる中、トランプ政権からは、反露的な発言が聞かれるようになった。トランプ氏は就任直前の記者会見

で、「ロシアのサイバー攻撃はあった」と前言を修正した。テイラーソン国務長官は議会公聴会で、「対露制裁はロシアの行動を抑制する上で重要だ」と述べた。スパイサー大統領報道官も、ロシアが14年に併合したクリミアについて「ウクライナに返還することを期待している」と述べた。

政権要人のこうした発言は、就任前の親露的発言から後退しており、明らかに「ロシア・ゲート事件」が影響している。トランプ政権が親露に舵を切るなら、一連の疑惑はやはり事実だったと思われる。ロシアと一線を引く必要があったようだ。

共和党主流派はロシアを脅威とみなすタカ派が多いこと、閣僚にもマティス国防長官ら反露主義者が多いことなどから、米露関係改善はさして進まないとの見方も多い。

ロシアにとつての悪夢は、トランプ大統領が政権運営のため議会タカ派と取引し、反露政策に転換することだ。それ以上に、トランプ氏が「ロシア・ゲート」で失脚した場合、後継政権はオバマ政権以上にロシアを敵視する可能性がある。米国の経済力の7%にすぎず、同盟国もないロシアは、米国には到底対抗できない。

それにしても、トランプ政権は外交で独自色を出そうとしたロシアで早くも大混乱する事態となった。情報機関など反トランプ勢力が今後もメディアに情報リークを続けるなら、「ロシア・ゲート」が政権運営の足かせとなる。

政府高官の任命や政策立案も過去の政権と比べて大幅に遅れており、反トランプ・デモも全米各地で続いている。内外政策の混迷で、米国の世界における指導力は低落する一方だ。

(3月1日)